



地方独立行政法人 大阪市博物館機構 年報
【2022 年度】



目 次

ごあいさつ	1
I. 組織	
I－（１）役員	2
I－（２）沿革	2
I－（３）組織図	2
I－（４）職員	2
II. 大阪市博物館機構のあらまし	3
III. 大阪市博物館機構の事業	
III－（１）各館の主な事業	4
III－（２）事務局の主な事業	5
IV. 各施設の活動	
大阪市立美術館	6
大阪市立自然史博物館	8
大阪市立東洋陶磁美術館	10
大阪市立科学館	12
大阪歴史博物館	14
大阪中之島美術館	16
V. 資料	
決算報告書	18
VI. 大阪市博物館機構からのお知らせ	19

ごあいさつ

2019 年 4 月に設立された地方独立行政法人大阪市博物館機構は、歴史・美術から自然・科学に至るまで、テーマの異なる 6 つの博物館・美術館を一体的に運営する全国初の地方独立行政法人として設立され、4 年間を経過しました。

2022 年度は、夏季に新型コロナウイルスの第 7 波などの影響を受けつつも、その影響は幾ばくか収まり、新しい生活様式に沿った事業継続のもと、一定程度の落ち着きの中で博物館活動が行えた 1 年でありました。

入館者数については 130 万人を超え、2021 年度対比で約 130% となり、特に大阪市立科学館では、目標入館者数の約 140% を達成し、目標を大幅に超えるお客様をお迎えしました。また、大阪市立自然史博物館や大阪歴史博物館でも常設展の入館者数が大きく増加するなど、コロナ禍からの回復基調にはあるものの、2019 年度と比較すると、コロナ禍以前の状況まで回復したとは言えない状況にあります。そのような中でも、引き続き行事等のオンライン配信や、民間事業者等との協働など、創意工夫をしながら市民サービスに努めた 1 年でありました。

一方で、大阪市立美術館や大阪市立東洋陶磁美術館の改修工事のため休館等があり、来館を楽しみにされていた皆様方にはご迷惑をおかけしているところでございますが、リニューアルした際には今まで以上に来館される皆様方に大阪に立地する博物館・美術館の魅力を感じて頂けるよう、鋭意改修工事を進めております。今後も引き続き、各館の特色を生かし、連携による相乗効果をこれまで以上に発揮していくことで、大阪市ミュージアムビジョンに掲げられた「都市のコアとしてのミュージアム」を実現し、皆さまと共に「大阪を元気に」していきたいと考えております。

また、2025 年に開催される「大阪・関西万博」に向けて、我々が持つ展示品やコンテンツを通じて、大阪の自然や歴史、文化・芸術、科学技術の素晴らしさを発信するとともに、各館共通のインフラの構築等、インバウンドのお客様を含めた皆様をお迎えする体制の整備に取り組み、「都市の文化拠点」としても貢献するべく現在準備を行っております。

なお、2022 年度は、全国の美術館として初めて、PFI コンセッション方式を導入し、官民の連携により運営を開始した大阪中之島美術館が、経済界から「大阪活力グランプリ 2022」や「第 20 回関西元気文化圏賞」などの名誉ある賞を受賞するなど、都市の賑わい創出への寄与が認められた 1 年となりました。開館後応援してくださいました府民・市民をはじめとした皆さま方や、運営に尽力して頂きました（株）大阪中之島ミュージアムの皆様に厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、大阪市博物館機構並びに各館への皆さまの温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

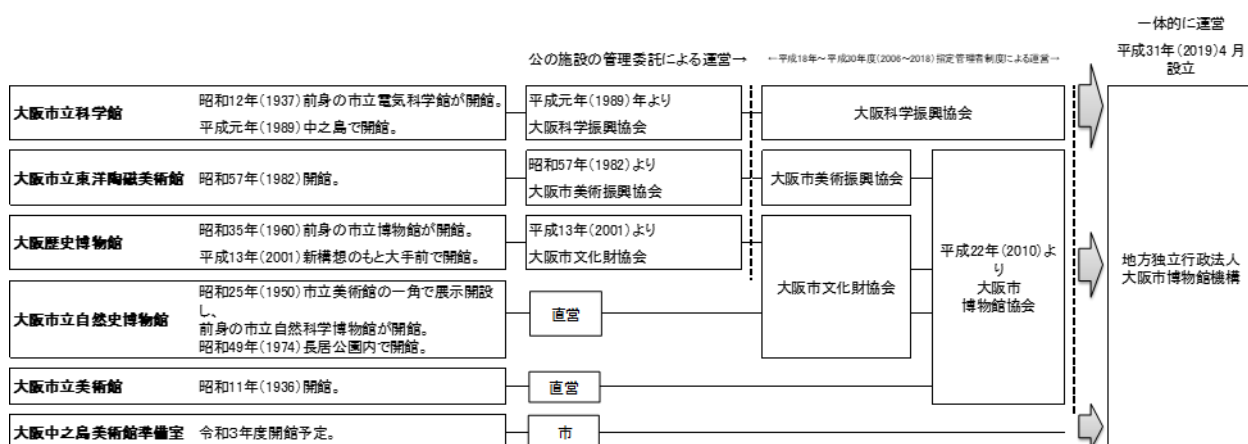
地方独立行政法人 大阪市博物館機構
理事長 真鍋精志

I. 組織

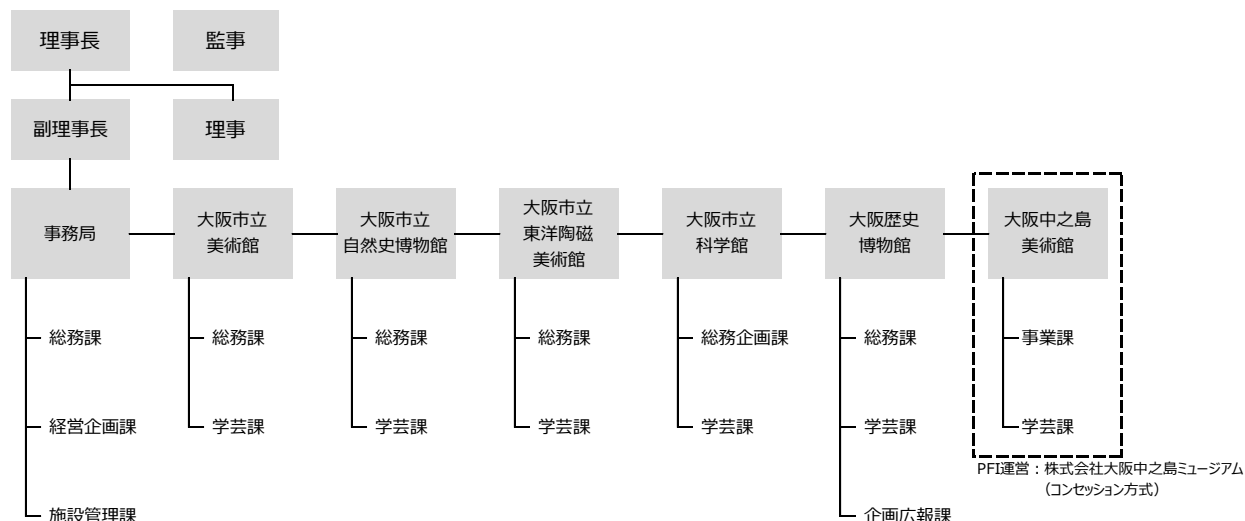
(1) 役員（令和4年4月1日現在）

理事	眞鍋精志	理事	布谷知夫
副理事	安積孝夫	理事	山梨俊夫
理事	佐藤友美子	監事	西尾方宏
理事	玉岡かおる		

(2) 沿革



(3) 組織図



(4) 職員（令和4年4月1日現在）

	事務局	大阪市立 美術館	大阪市立 自然史博物館	大阪市立 東洋陶磁美術館	大阪市立 科学館	大阪歴史 博物館	大阪中之島 美術館	計
事務職(技術職含む)	25	10	10	8	11	12	0	76
学芸職	3	10	15	5	12	21	11	77
計	28	20	25	13	23	33	11	153

Ⅱ. 大阪市博物館機構のあらまし

【特徴】

地方自治体として初めて独立行政法人として博物館を運営し、美術、自然、陶磁器、科学、歴史、現代美術といった異なる分野の施設を一体管理しています。

【目的】

地方独立行政法人大阪市博物館機構は、博物館及び美術館を設置し、歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する資料等を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、当該資料等に関する調査研究及び普及活動を通じて、市民の文化と教養の向上を図るとともに、学術の発展に寄与することを目的としています。

(定款第 1 条から)

【業務の範囲】

当機構は、上記の目的を達成するため、次に掲げる業務を行っています。

1. 博物館等を設置すること
2. 歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料、その他の資料（以下「博物館等資料」という。）を収集し、保管して公衆の観覧に供すること
3. 博物館等資料に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること
4. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究を行うこと
5. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びに前号の調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと
6. 市民の生涯学習の機会を提供すること
7. 博物館等資料を貸し出し、及び交換すること
8. 他の博物館等、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協働すること
9. 第 1 号の博物館等の運営に関する調査研究及び評価等を行うこと
10. 前各号に掲げる業務に附帯する業務を行うこと（定款第 16 条から）

【各館の活動目的】

大 阪 市 立 美 術 館

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とし、日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪市立自然史博物館

大阪の「自然の情報拠点」として自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指し、人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える事業を行っています。

大阪市立東洋陶磁美術館

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指し、東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大 阪 市 立 科 学 館

科学を楽しむ文化の振興を図るため、主に物理学・化学・天文学・気象・科学技術に関する調査研究、資料の保存、管理、収集、展示、プラネリウム投影、教育普及等の事業を行っています。

大阪歴史博物館

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指し、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行っています。

大阪中之島美術館

館の使命
「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」
「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」
「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットフォームとなります。」
「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たすべく、大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施します。

Ⅲ. 大阪市博物館機構の事業

(1) 各館の主な事業

(ア) 博物館資料の収集・保管

購入・寄贈により資料を収集し、寄託による受け入れを行い、それらを適切に保管して将来へ継承します。

(博物館資料には、歴史・美術・自然・科学・科学技術に関する実物・標本・現象に関する資料などが含まれます。)

館蔵品数 (令和 5 年 3 月 31 日時点)

(件)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
8,673	1,955,279	5,732	2,270	149,061	6,252	2,127,267

※大阪歴史博物館については点数

国宝・重要文化財数

(件)

	大阪市立美術館		大阪市立東洋陶磁美術館		大阪歴史博物館		大阪中之島美術館	
	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品	館蔵品	寄託品
国宝		5	2		2			
重文	14	114	13	1	671	55		1

※大阪歴史博物館・大阪中之島美術館については点数

新収蔵品数 (購入・寄贈含む)

(件)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
135	28,316	27	1	746	101	29,326

修理点数

(点)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
4	0	7	7	0	11	29

(イ) 博物館資料等に関する調査研究

博物館資料についての専門的な調査研究や、利用者調査をはじめとする博物館運営に関する調査・分析などを行います。

文部科学省科学研究補助金を受けて行った研究

(件)

大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	計
3	22	4	2	11	42

※大阪中之島美術館については科学研費研究機関でないため除外

(ウ) 博物館資料の展示

常設展では、展示替を行いながら館蔵品・寄託品などを公開します。また、各館で年数回の特別展の開催や大阪市立科学館ではプラネタリウムの投影などを行います。

各館観覧者数

(人)

	大阪市立美術館	大阪市立自然史博物館	大阪市立東洋陶磁美術館	大阪市立科学館	大阪歴史博物館	大阪中之島美術館	計
常設展		247,423		288,920	131,844		668,187
特別展・プラネタリウム	204,005	113,842		287,223	14,456	462,395	1,081,921

各館の開館日程については、Ⅳ. 各施設の活動よりご参照ください。

(エ) 教育普及事業

講演会・展示解説・ワークショップ・観察会などの事業を通して、活動成果の公開と普及をはかります。

また、学校や教員と連携し、生徒・学生の利用を促します。ボランティア活動や NPO 法人との連携により、館活動への参画機会を提供します。各館の特徴に応じた様々な事業を行っています。

(オ) 事業の効果を高める業務

展覧会や教育普及事業において地域や関係団体、マスメディアなどと連携を取り、よりよい事業を構築します。

戦略的な広報により、効果的な情報発信を行います。障がい者や外国人をはじめ、だれもが利用しやすい博物館運営を行います。また、館の機能強化やサービス向上のため施設改修に取り組みます。

(2) 事務局の主な事業

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努めています。

総務課

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限発揮できるよう、必要な体制整備や職員の育成や、内部統制などその他運営に関する事項について行っています。

- ・職員の職能別・階層別の研修の実施
- ・人事評価制度の検討

経営企画課

大阪市博物館機構に所属する各館の持つ魅力をみなさまにお届けするために、広報誌の作成や、講演会を実施しています。また、法人の適正な目標設定及び自己評価を行うために中期計画及び年度計画の策定及び評価に関する規程等を整備しています。

また、大阪公立大学と教育、研究、社会貢献の分野で知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的連携事業を相互に協力して実施し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び学術文化の向上発展に寄与する事業など教育普及事業にも取り組んでいます。

■ 広報

- ・インターネットのポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で運用し、展覧会情報を掲載
- ・SNSによる展覧会情報の広報活動
- ・広報誌の作成：ミュージアム情報冊子「OSAKA MUSEUMS」の印刷・配布（4回発行）



ミュージアム情報冊子
「Osaka Museums」

■ 教育普及

① 講座

- ・学芸員などによる長期連続講座「TALK & THINK」の開催（16回実施）
- ・出前講座の実施：「見どころたくさん大阪市の博物館・美術館」（1回実施）
- ・ミュージアム連続講座：「大阪と自然科学」（3週連続）
- ・博学連携シンポジウム：「すみよし南部の10万年
—大阪平野の形成から大学誕生まで—」

② 大阪公立大学への出講

- ・博物館関連講義へ学芸員を派遣（通年実施：3講座）

③ 学校連携

- ・小学生向けオンライン授業の鑑賞学習コンテンツを企画・開発し、市内小学校にて授業を実施した。
- ・教員のための博物館研修「教員のための博物館の日」の実施



「TALK & THINK」
開催チラシ



「ミュージアム連続講座」
開催案内チラシ

施設管理課

美術館・博物館の快適な利用環境の確保に向けた整備計画の立案を行っています。また、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施しています。

IV 各館の活動

大阪市立美術館

大阪市立美術館は、市民が優れた美術文化に接する機会を提供し、生活に潤いをもたらすとともに、美術家の活動を助成し、広く大阪の文化振興に資することを目的として、昭和 11 年 5 月に開館しました。美術館は天王寺公園の中に位置していますが、その敷地は住友家の本邸があった所で、美術館の建設を目的に庭園（慶沢園）とともに大阪市に寄贈されたものです。

美術館は設立当初の本館と、平成 4 年に美術館の正面地下に新設した地下展覧会室で構成されています。地上 3 階、地下 2 階からなり、本館陳列室では、特別展やコレクション展を開催しています。コレクション展では購入や寄贈によって集まった日本・中国の絵画・彫刻・工芸など 8500 件をこえる館蔵品と、社寺などから寄託された作品を随時陳列しています。これらの作品には国宝や重要文化財に指定された作品も多く含まれています。また地下展覧会室では、常時様々な美術団体が主催する展覧会を開催しています。

本館地下には美術館に付設されている美術研究所があり、素描、絵画、彫塑の実技研究を行っています。

■ 展示・公開

● コレクション展

当館は美術館としての機能強化、サービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に大規模改修計画を策定し、改修工事を行っています（工事に伴い、2022 年 9 月 26 日より 2 年半休館します）。改修工事期間中は特別展のみの開催であったため、令和 4 年度は当館コレクションを展示する常設展示の開催はありませんでした。一方、当館コレクションの名品を紹介する展覧会が開催され、当館の学芸員が一丸となって企画や図録執筆を行うとともに館長が各地で講演会を行うなど、休館中も積極的に活動を行いました。

（令和 4 年度巡回展）

美をつくりー大阪市立美術館コレクション（東京・福島を巡回）



サントリー美術館のチラシ



福島県立美術館のチラシ

● 特別展

国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催しています。

（令和 4 年度 特別展一覧）

期間	展示名称	入場者数
4月16日～6月5日	華風到来 チャイニーズアートセレクション	11,728人
7月16日～9月25日	ドレスデン国立古典絵画館所蔵「フェルメールと17世紀オランダ絵画展」	192,277人



華風到来 チャイニーズアートセレクション



「フェルメールと 17 世紀オランダ絵画展」

■ 収集・保管・修理

絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入・寄託・寄附によって、作品の収集に努めています。

年月を経て劣化した作品を将来にわたって保存し、継承していくために、展示室や収蔵庫の環境管理・データベース化・資料の状態を考慮しての修理などを行っています。

■ 教育普及

来館者に探求心を抱き、感受性や創造性を育んでいただくために、日本・中国を中心とする政界諸地域の文化財について理解を深めるための手助けを行っています。学校との連携やボランティア活動への支援を行うとともに、展示会の講演会を行うことで、都市のコアとしてのミュージアムにふさわしい教育普及活動を実施しています。

（１）講演会

展示会などの関連事業としての講演会の実施

（２）美術研究所での指導

作品画像による添削を中心としたオンラインサポートを実施

（３）大学との連携

キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ生の受入、講座への出講

■ 調査研究

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について調査研究を行い、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や、文化活動の助成金も活用しています。令和４年度の研究テーマを紹介します。

- ・古代東アジアの祥瑞と王権：漢～唐代成立の瑞獣画像をめぐる学際的研究
- ・中国南北朝～唐時代における道教礼拝像の地域性研究：河東(山西省西南部)を中心に
- ・大陸説話集の利用をめぐって－絵画作例を中心に－

沿革

大正 9 年（1920）	3月30日、市議会の決議により美術館設立が議決される
大正 10 年（1921）	12月、住友家が美術館建設を条件に茶臼山本邸寄付を大阪市に申し出る
昭和 5 年（1930）	鉄筋コンクリート工事が竣工するが、世界恐慌により工事中断
昭和 9 年（1934）	美術館工事再開、外装工事が竣工
昭和 11 年（1936）	5月1日、大阪市立美術館開館 落成記念展は「改組第一回帝国美術展」
昭和 17 年（1942）	阿部コレクション中国絵画の寄贈を受ける陸軍による接収を受ける
昭和 18 年（1943）	小西家旧蔵光琳資料の寄贈を受ける
昭和 19 年（1944）	住友家より関西邦画展出品作の寄贈を受ける
昭和 20 年（1945）	第二次世界大戦終戦連合国軍による接収を受け、事務所を移転する
昭和 21 年（1946）	寄寓先の旧精華国民学校内に美術研究所を開く
昭和 22 年（1947）	美術館接収解除される
昭和 23 年（1948）	美術館での展示活動を再開する
昭和 26 年（1951）	博物館法の制定により教育委員会に移管される
昭和 52 年（1977）	山口コレクション中国仏教彫刻・工芸の譲渡を受ける（昭和53年度まで）
昭和 55 年（1980）	田万コレクションの寄贈を受ける
昭和 56 年（1981）	カザールコレクション漆工の譲渡を受ける（昭和59年度まで）
昭和 62 年（1987）	天王寺公園が有料化される南館の美術団体展覧会場の一部が アベノベルタに移転し、それに伴い本館南館の一部が常設展示会場となる
平成 4 年（1992）	美術館正面 地下に展示会室を新設し、南館とアベノベルタの美術団体展 覧会場を統合移転する。南館は常設展示会場となる
平成 7 年（1995）	小野コレクション 中国石仏の譲渡を受ける（平成14年度まで）
平成 27 年（2015）	登録有形文化財（建造物）に登録される

施設概要

規模・構成	地上 3 階、地下 3 階
延床面積	17,190㎡（本館12,306㎡、新館4,884㎡）
展示面積	6,485㎡
収蔵面積	760㎡
展示室構成	18室：本館 1 階、10室 本館 2 階、8 室
地下展示会室構成	4 室：新館地下 2 階
活動用諸室	美術ホール 本館 1 階 特別室 本館 2 階
その他諸室	事務室・学芸室・図書室・書庫ほか 本館地下 1 階

（改修前）

大阪市立自然史博物館

大阪市立自然史博物館は人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、その変遷や歴史を、展示や普及活動、研究を通して広く知っていただく施設です。私たち一人一人が、自然界の構造や諸関係について、幅広い知識を持つことが大切な時代になってきました。自然の保全のためだけでなく、よりよい未来、そしてよりよい生活環境を実現するためにも、大切です。

自然史博物館では、こうしたテーマを「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」と題した 4 つの常設展示室、そして特別陳列や特別展を通して展示すると共に、年間 80～100 回程度開催される様々な観察会や講演会などの行事などを通じて様々な角度から、わかりやすく伝えていきたいと思っています。

■展示・公開

●常設展示

常設展示では、人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示しています。また、テーマ展示・コーナー展示・ミニ展示といった小規模な企画展示も随時行っております。

(令和 4 年度：企画展示)

○テーマ展示

- | | |
|-----------------------------|------------------------|
| ・「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展 2022～」 | 期間：7 月 16 日～9 月 25 日 |
| ・「田中秀介展：絵をくぐる大阪市立自然史博物館」 | 期間：10 月 25 日～12 月 11 日 |
| ・「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」 | 期間：12 月 10 日～1 月 29 日 |
| ・「絶滅危惧種 東南アジアの霊長類～奥田達哉写真展～」 | 期間：3 月 11 日～5 月 12 日 |

●特別展

国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局などと連携して、特別展を開催しています。

(令和 4 年度：特別展)

期間	展示名称	入場者数
1 月 14 日～4 月 3 日	植物 地球を支える仲間たち	6,120 人
4 月 29 日～6 月 19 日	日本の鳥の巣と卵 427	16,809 人
7 月 16 日～9 月 25 日	大地のハンター ～陸の上にも 4 億年～	55,516 人
12 月 17 日～2 月 26 日	大阪アンダーグラウンド RETURNS ～掘ってわかった大地のひみつ～	7,140 人
3 月 18 日～5 月 28 日	毒	28,257 人

※「植物 地球を支える仲間たち」の観覧者数については令和 4 年分（4 月 1 日～3 日）

※「毒」の観覧者数については 3 月 31 日時点



植物 地球を支える仲間たち



日本の鳥の巣と卵 427



大地のハンター
～陸の上にも 4 億年～



大阪アンダーグラウンド RETURNS
～掘ってわかった大地のひみつ～



毒

■収集・保管・修理

大阪市立自然史博物館では、「自然史標本の今後の収蔵計画について 大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理を行っています。

(令和 4 年度：主な寄贈コレクション)

- ・小海途銀次郎鳥の巣コレクション 約 520 点

■教育普及

活動制度の公開と普及のため、自然観察会など多様な野外行事・講演会などを行っております。

(令和4年度：168回実施、計8,070人参加 ※雨天などのため15回中止)

(1) 講座・講演会・シンポジウム・野外行事など

- ・学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」の開催
- ・外部の学術団体などと連携したシンポジウムの開催
- ・「うちミュージアム」と連携したTwitterやHPでの情報発信
- ・YouTubeへの動画コンテンツの公開(10,789時間再生・チャンネル総登録者数3,790名)

(2) 子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施

- ・常設展・特別展でのワークシートの作成
- ・学校団体の遠足下見、説明会、相談対応

(3) 学生への支援

- ・博物館実習を通じての学生への支援
- ・大学への講師派遣

■調査研究

大阪の周辺の自然についての調査や、自然のしくみ・おいたちについての基礎的な研究をしています。これらの研究は、科学研究費補助金や文化庁補助金を活用しています。令和4年度の研究テーマを一部紹介します。

- ・送粉者シフトを介する生態的種分化はどのような環境で進行するか？
- ・栽培きのこ鱗翅類害虫の同定手方の開発および生活史・分布情報のデータベース構築
- ・野外生態調査の証拠標本の保管と博物館資料としての登録・収蔵システムの構築
- ・全体的な気候変動が植物の形態進化に及ぼす影響：新第三紀の植物化石を例として
- ・超海洋パンサラッサ海における複合化石生層序と安定同位体比層序

沿革

昭和24年(1949)	自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年(1950)	市立美術館二階廊下において展示開設
昭和27年(1952)	博物館法第10条により登録(第2号)
昭和32年(1957)	市立美術館より西区靉2丁目(元靉小学校校舎改造)に移転
昭和33年(1958)	開館
昭和34年(1959)	新館建設について大阪市社会教育審議会の意見具申
昭和42年(1967)	大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
昭和48年(1973)	自然史博物館建設工事竣工 旧館閉館
昭和49年(1974)	自然史博物館開館式挙行 開館
昭和61年(1986)	新装開館
平成13年(2001)	花と緑と自然の情報センター開館
平成16年(2004)	長居移転(自然史開館)30周年
平成18年(2006)	ナウマンホールリニューアル
平成19年-20年 (2007-2008)	第5展示室オープン (第一期オープンは平成19年3月24日、第二期は平成20年4月26日)
平成26年(2014)	長居移転(自然史開館)40周年

施設概要

規模・構成	地上3階、地下1階	
延床面積	12066.01㎡	
展示面積	3831.24㎡	
収蔵面積	1,971.50㎡	
展示室構成	5室(1～2階) ナウマンホール 550.35㎡ 第1展示室 身近な自然 360.55㎡ 第2展示室 地球と生命の歴史 486.64㎡ 第3展示室 生命の進化 403.10㎡ 第4展示室 自然のめぐみ 通廊展示 第5展示室 生き物のくらし 360.55㎡ 2階ギャラリー 266.29㎡ 大阪の自然誌 638.82㎡ ネイチャーホール 764.95㎡	
活動用諸室	講堂・集会室・研究室・実験室・実習室	
その他諸室	書庫・事務室・会議室(1階)	

大阪市立東洋陶磁美術館

大阪の都心部に広がる緑と水の空間、中之島公園。大阪市立東洋陶磁美術館は、その緑に溶け込むように建っています。

この美術館は、世界的に有名な「安宅コレクション」を住友グループ 21 社から寄贈されたことを記念して大阪市が設立したもので、1982(昭和 57)年 11 月に開館しました。館蔵品は「安宅コレクション」の中国・韓国陶磁を中心に、「李秉昌(イ・ビョンチャン)コレクション」の韓国陶磁、濱田庄司作品などの寄贈や、日本陶磁の収集などにより、東洋陶磁のコレクションとして世界第一級の質と量を誇っています。このなかには、2 件の国宝と 13 件の重要文化財が含まれています。また、ペルシア陶器、鼻煙壺など関連分野のコレクションの寄贈によっても館蔵品の充実が進んでいます。展示では、代表的な作品約 300 件によって中国、韓国、日本の陶磁などを独自の構成と方法により系統的に紹介しています。年 1～2 回の企画展、特別展では専門的なテーマのもとに、学術的水準と芸術性の高さを保ちながら、魅力ある内容の展示をめざしています。

作品の魅力をこころゆくまで鑑賞していただけるよう、自然採光展示ケース、回転式展示台、免震展示台、照明など展示設備にもさまざまな工夫をこらしています。当館は東洋陶磁を中心とした質の高いコレクションを通して、美的体験の場を提供し、豊かな感性の育成と教養の向上に貢献していきます。

■展示・公開

●コレクション展・特別展

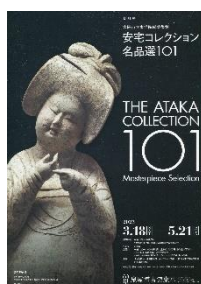
当館は美術館としての機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、改修工事を行っています。(工事に伴い、2022 年 2 月 7 日から 2024 年春頃まで休館します。) 休館中により、令和 4 年度は常設展・特別展ともに開催はありませんでした。一方、台北の國立故宮博物院や泉屋博古館東京などへ当館の主要コレクションを貸し出したり、それに伴う講演会を実施したりと休館中も積極的に活動を行いました。

(令和 4 年度コレクション貸出件数)

- ・台北 國立故宮博物院「閑情四事—挿花・焚香・掛画・喫茶」(9 月 16 日～12 月 18 日)に、国宝・油滴天目茶碗 他 計 21 件を貸出。
- ・泉屋博古館東京で開催する特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選 101」(2023 年 3 月 18 日～5 月 21 日)に、国宝・油滴天目茶碗 他 計 101 件を貸出。
- ・韓国 Leeum 美術館「朝鮮の白磁、君子志向」(2023 年 2 月 28 日～5 月 28 日)に、青花梅竹文壺 他 計 22 件を貸出。



台北 國立故宮博物院
閑情四事—挿花・焚香・掛画・喫茶



泉屋博古館東京



韓国 Leeum 美術館
朝鮮の白磁、君子志向

大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選 101

■収集・保管・修理

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指すため、芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行っております。また、作品の保存・継承と、展示などによる効果的な活用を高めるため、状態や活用予定などを勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行っております。

(令和 4 年度：寄贈作品数 27 件 30 点 寄託作品数 36 件 37 点 修復作品数 7 件 7 点)

■教育普及

来館者に豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たすため、展覧会ごとに関連した講演会、講座などを開催しています。また、博物館額を開講する大学への見学実習の受入れや、館蔵資料の調査対応などを通じて研究者の活動を支援しています。

- (1) 小学生向け授業コンテンツの開発
オンライン授業のコンテンツを企画・開発し、市内の小学校で授業を実施
- (2) 講演会・講義・レクチャーなど
 - ・開館 40 周年記念事業などオンライン配信の講演会を実施
 - ・台北の國立故宮博物院の展覧会に対する特別協力に伴う、記念講演やギャラリートークを実施
 - ・李秉昌博士記念公開講演会の実施
 - ・ボランティア向けレクチャーを実施

■調査研究

国内外の関連研究機関との学術交流、海外への作品貸出などの展覧会協力を行うとともに調査研究活動を一層充実させ、世界における東洋陶磁の研究拠点としての役割を担っています。また、研究成果を展示や展覧会図録、各種普及活動に反映させています。これらの研究には李秉昌韓国陶磁研究基金のほか、科学研究費補助金など競争的資金も活用しています。令和 4 年度科学研究費補助金の研究テーマを紹介します。

- ・中国宋代天目茶碗の総合的調査研究—新出土資料と科学分析を踏まえた伝世品の再評価
- ・東アジア的視点から見た高麗青磁の総合的研究—産地、編年、流通、需要の諸様相
- ・近代日本における中国陶磁研究への新たな視座—小森忍の活動を通して
- ・近世における漆継ぎに関する基礎的研究—日本の陶磁器受容の独自性を視座として

沿革

昭和55年（1980）	住友グループ21社から安宅コレクション寄贈の申し出を受ける 大阪市は中之島公園内に専門美術館を建設することを発表
昭和57年（1982）	11月6日 大阪市立東洋陶磁美術館開館式
昭和58年（1983）	「昭和 5 7 年照明普及賞」を受賞
昭和59年（1984）	「建築業協会賞」を受賞
平成8年（1996）	第1次李秉昌コレクション韓国陶磁121件の寄贈
平成10年（1998）	第2次李秉昌コレクション韓国陶磁100件の寄贈 第3次李秉昌コレクション韓国・中国陶磁130件の寄贈
平成11年（1999）	新館開館式典 「韓国陶磁研究奨学生」の募集開始(以後2007年まで毎年度募集)
平成12年（2000）	李秉昌記念陶磁資料室公開（～2010年まで。以後、作品収蔵スペースとして活用） 第1次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか204件の寄贈
平成13年（2001）	第2次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか38件の寄贈 第3次堀尾幹雄コレクション中国陶磁ほか23件の寄贈
平成17年（2005）	第4次堀尾幹雄コレクション濱田庄司作品ほか11件の寄贈
平成20年（2008）	沖正一郎コレクション鼻煙壺1139件の寄贈 沖正一郎鼻煙壺展示コーナー新設・公開
平成30年（2018）	第1次松恵コレクション日本陶磁ほか240件の寄贈
平成31年（2019）	第2次松恵コレクション日本陶磁ほか147件の寄贈 辻井コレクション灯火具84件の寄贈

施設概要

規模・構成	地上 3 階、地下 1 階	
延床面積	3,921.80㎡	
展示面積	1,032㎡	
収蔵面積	121.8㎡	
展示室構成	11室（2～3階）	
	A 韓国陶磁室□	126.0㎡
	B 韓国陶磁室	70.0㎡
	C 韓国陶磁室□	92.3㎡
	D 李秉昌コレクション韓国陶磁室	193.5㎡
	E 日本陶磁室	102.6㎡
	F 特集展示室□	61.2㎡
	G 中国陶磁室	100.0㎡
	H 中国陶磁室（自然採光室）	47.0㎡
	I 中国陶磁室□	110.0㎡
	J 企画展示室	110.2㎡
	K 沖正一郎コレクション鼻煙壺室	19.2㎡
活動用諸室	研究室・図書室	
その他諸室	事務室・学芸室・会議室	

大阪市立科学館

大阪市立科学館は大阪市が市制 100 周年記念事業の一つとして計画し、関西電力株式会社からの寄贈申し出により実現の運びとなり、平成元年（1989）10 月 7 日に開館しました。テーマは「宇宙とエネルギー」で、テーマとそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究を行っています。

各階ごとにテーマを設けた 1～4 階の展示場と、世界最新鋭の投影システムを導入したプラネタリウムを備えています。展示場では、貴重な実物資料だけではなく、実際に体験できる体験型展示を展開し、お客様自身が楽しく科学に接することをとおして、使命である「科学を楽しむ文化の振興」をめざしてゆきます。

■展示・公開

●常設展示

常設展示では、「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1 階から 4 階の各フロアで物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料を模型・装置・実物などにより展示し、またサイエンスショーなどの演示を行っています。

（令和 4 年度実績）

- ・常設展示：観覧者数 288,920 人
- ・サイエンスショー：演示回数 932 回 見学者数 44,460 人

●プラネタリウム

大阪市立科学館では、新しいプログラムを 3 か月に 1 本制作・投影しています。幅広い年齢層の方楽しんでいただけるよう、一般投影以外にも、ファミリータイム・学習投影など多種多様なプログラムを提供しております。

（令和 4 年度 プラネタリウム観覧者数：287,223 人）

演示名称	内容
一般投影A	「今夜の星空」の解説に加え、下記のテーマ解説を行っています。学芸スタッフ等による生解説が基本となっています。 投影回数：752回 観覧者数：98,641人 タイトル：太陽系グランドツアー、天の川クルーズ、宇宙美術館2022、火星を歩く、星空ぐるり百光年
一般投影B	当館オリジナル制作の全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等による「今夜の星空」の生解説と合わせて投影しています。 投影回数：599回 観覧者数：82,656人 タイトル：まだ見ぬ宇宙へ、星の降る夜に～流星群の正体に迫る～、星の誕生、オーロラ
ファミリータイム	幼児から小学校低学年までの子供連れの家族（園団体を含む）向けの投影を行っています。 投影回数：450回 観覧者数：57,178人
学習投影	平日の学校団体専用の学習用プログラムの投影を行っています。 見学校：477校 投影回数：234回 観覧者数：34,776人
学芸員スペシャル	学芸員の専門・得意分野を生かした投影を行っています。 投影回数：114回 観覧者数：13,459人
特別投影	小学校高学年生とその家族を主な対象として、天体観察の方法などを解説します。ジュニア科学クラブ会員を同時に対象としています。 投影回数：3回
スペシャルナイト	天文学の普及と市民の生涯学習を目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を行っています。 ・オーロラに包まれて 2月4日、5日 参加費1,500円 312人参加 ・ブラックホールを見た日 3月11日 参加費1,000円 213人参加

■ 収集・保管

物理・化学・天文・科学史・気象・科学技術を中心とした新規資料を収集し、科学分野における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行っています。また、大学などとの連携を通じて観測器類・実験装置などの収集も行っています。
(令和4年度実績：改善 7点)

■ 教育普及

「本物、実物、生の現象」による体験、そして感動をより多くの方に届けるために様々な教育普及活動に力を入れています。

(1) 講座・講演会・シンポジウムの開催

- ・実験教室・講座：天体観望会（全11回、うち2回はオンライン）、ジュニア科学クラブ（12回）、中之島科学研究所コロキウム（11回）、夏休み自由研究教室（3回）
- ・オンライン事業：「大阪市立科学館オンライン講座」（全4回）
- ・子供向けワークシートの作成・ワークショップの実施
- ・展示場ワークシート・学校団体専用の学習用プラネタリウムの投影
- ・出張サイエンスショー（小学校向け）：10件

(2) 学生への支援

- ・天文を学べる大学・大学院に興味のある高校生、教員などを対象にしたイベント「天文学者大集合！宇宙を学ぶ大学紹介イベント」を対面により実施し、オンライン中継も併せて実施。（実来場者数65名、オンライン参加者379名）

■ 調査研究

当館の運営テーマである「宇宙とエネルギー」を中心にそれらに関連する様々な科学知識・技術の普及、啓発、研究を行っており、その研究成果を科学に関する資料の収集・保管・展示に反映させています。これらの研究には科学研究費補助金や文化庁補助金なども活用しています。令和4年度研究テーマを一部紹介します。

- ・近世天文暦学者の研究過程とその背景
- ・全天画像・気象観測データと数値計算モデルの対応による観天望気への応用

沿革

昭和61年(1986)	関西電力（株）から大阪市制100周年に賛同し、関西の電気事業創業100年を記念して「科学技術館（仮称）」を建築して寄贈する旨申し出
平成元年(1989)	5月31日（大阪市立電気科学館 閉館） 10月7日 開館
平成2年(1990)	のべ100万人来館
平成5年(1993)	第1次展示改装（第1期）オープン 12月25日 のべ300万人来館
平成6年(1994)	第1次展示改装（第2期）オープン 第1次展示改装（第3期）オープン
平成9年(1997)	のべ500万人来館
平成11年(1999)	第2次展示改装オープン
平成16年(2004)	プラネタリウム機器リニューアル
平成18年(2006)	のべ1000万人来館
平成20年(2008)	第3次展示改装オープン
平成21年(2009)	オリジナル全天周映像「HAYABUSA-BACK TO THE EARTH-」完成・上映開始 開館20周年記念式典
平成23年(2011)	プラネタリウムホールプロジェクトリニューアル
平成25年(2013)	入館者1500万人達成
平成31年(2019)	光学プラネタリウム更新、展示場一部改装し、リニューアルオープン
令和4年(2022)	全天周映像システム更新、展示場一部改修 8月27日 のべ2000万人来館

施設概要

規模・構成	地上4階塔屋、地下1階建て	
延床面積	9,356.45㎡	
展示面積	3,156.3㎡	
収蔵面積	95.7㎡	
展示室構成	プラネタリウムホール	480.0㎡
	1階展示場	344.0㎡
	2階展示場	421.9㎡
	3階展示場	996.0㎡
	4階展示場	1,394.4㎡
	天体観測室	25.8㎡
活動用諸室	研修室・工作室・多目的室	
その他諸室	事務管理室・会議室	

大阪歴史博物館

大阪歴史博物館は、大阪に住む人たちははじめとし、すべての人たちに対して、この地で培われた歴史遺産・文化遺産に基づき、これまでの蓄積を踏まえながら、より広い観点に立って充実した活動を行っていきます。それを通して、ともに都市大阪の歴史に対する理解を深め、「歴史との対話」を常に大切にしながら、現在の社会・文化を考え、よりよい未来の創造をめざしていきます。

■ 展示・公開

● 常設展示

常設展示では、古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示しています。また、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催しています。

(令和4年度実績)

・常設展示：来館者数 131,844 人

(特集展示一覧)

- ・4月20日～6月27日 タイルとおおさかー日本における「タイル」名称統一 100 周年ー
- ・6月29日～9月5日 戦争と福祉・ボランティアー田中半治郎の遺品からー
- ・9月7日～11月14日 新発見！なにわの考古学 2022
- ・11月16日～1月23日 大阪近郊の農業ー農具とわざの諸相ー
- ・1月25日～3月21日 銀行重役のコレクションー京・大坂の近世絵画を中心にー



タイルとおおさか

ー日本における「タイル」名称統一 100 周年ー



戦争と福祉・ボランティア

ー田中半治郎の遺品からー



新発見！なにわの考古学 2022



大阪近郊の農業

ー農具とわざの諸相ー



銀行重役のコレクション

ー京・大坂の近世絵画を中心にー

● 特別展・特別企画展

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催しています。

(特別展・特別企画展一覧)

期間	展覧会名	入場者数
4月23日～6月5日	特別展 ～浮世絵師たちが描く～ 絶景！滑稽！なにわ百景！	14,456人
7月16日～9月4日	特別企画展 和菓子、いとおかし ー大阪と菓子のこれまでと今ー	20,365人
10月15日～12月4日	特別企画展 刀剣 ～古代の武といのり～	26,840人
1月21日～3月21日	特別企画展 ー橋本コレクション受贈記念ー 文明開化のやきもの 印版手	26,950人



～浮世絵師たちが描く～
絶景！滑稽！なにわ百景！



和菓子、いとおかし
ー大阪と菓子のこれまでと今ー



刀剣～古代の武といのり～



ー橋本コレクション受贈記念ー
文明開化のやきもの 印版手

■ 収集・保管

郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民のみなさまに紹介し、理解を深めることを方針とし、この趣旨に沿って歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行っています。
(寄贈 746 件 1,217 点、寄託 48 件 65 点)

■ 教育普及

「都市おおさか」の歴史と文化を市民のみなさまに紹介するため、様々な事業を行っています。

- (1) 講座・講演会・シンポジウムの開催
 - ・なにわ歴博講座（10 回）
 - ・考古学入門講座「考古学散歩」の実施
 - ・展覧会と関連したシンポジウムの開催
- (2) 教員を対象とした研修、教材の開発への支援
 - ・市内の小学校と連携し、見学会・講演会・体験のプログラムと教材を提供した。
 - ・大阪市教育センターとの連携による教員研修の実施
- (3) 学生への支援
 - ・学芸員資格の取得を目指す実習生の受け入れ
 - ・大学への出講

■ 調査研究

当館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」を実現するため、都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について調査研究を実施しています。また、これらの研究には科学研究費助成事業等も活用しています。令和 4 年度の研究テーマの一部を紹介いたします。
・先史～古代建築におけるゴヒラ材使用の歴史的解明
・藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究

沿革

大阪市立博物館（前身）

昭和4～6年（1929～31）	大阪城天守閣とともに、第四師団司令部建設のため市民の募金、6年に竣工後に中部軍司令部、終戦後は駐留軍施設として利用
昭和23年（1948）	旧第四師団司令部を大阪市警本部として返還
昭和33年（1958）	府警から市へ建物返還。市制70周年記念事業として旧第四師団司令部の歴史博物館への転用構想まとまる
昭和35年（1960）	5月 博物館創設事務室設置。館蔵品ゼロからのスタート 12月 第1期工事完了、1 階開館。第 1 回特別展「桃山文化展」開催
昭和37年（1962）	第2期工事完了、全館開館。記念特別展「大阪の名宝」開催
昭和51年（1976）	文部省の科学研究費を申請できる学術研究機関の指定を受ける
平成元年（1989）	有料入館者320万人突破
平成12年（2000）	最後の展覧会「開館40周年記念特別展 博物館ものがたり—市民と歩んだ40年・そして未来へ—」開催
平成13年（2001）	閉館

大阪歴史博物館

昭和60年（1985）	大阪市が「難波宮跡と大阪城公園の連続一体化構想」を発表
昭和62年（1987）	4月 NHKと大阪市が大阪放送会館の旧大阪市中央体育館北側敷地への移転合意。 7月 発掘調査開始（平成2年まで）し、5世紀代と前期難波宮にかかる倉庫群を発見
平成3年（1991）	遺構群を保存する方針を決定し、大阪市考古資料センター（仮称）の設置を決定
平成6年（1994）	旧大阪市立中央体育館跡地での考古資料センターと新博物館の建設を発表
平成9年（1997）	「（仮称）NHK大阪新放送会館および大阪市立新博物館・考古資料センター」の建設工事が着工
平成13年（2001）	大阪歴史博物館条例公布、建物竣工 大阪歴史博物館開館

施設概要

規模・構造	地上13階・地下3階建て	
延床面積	23,606.54㎡（専有部） 18,989.08㎡（共有部）	
展示面積	4,118.04㎡（常設展示） 892.64㎡（特別展示）	
収蔵面積	2,188.11㎡	
展示室構成	10階 難波宮の時代	1,219.37㎡
	9階 大坂本願寺の時代 天下の台所の時代	1,161.34㎡
	8階 特集展示	196.99㎡
	歴史を掘るなど	486.24㎡
	7階 大大阪の時代	1,054.10㎡
	6階 特別展示室	892.64㎡
	地下1階 保存遺構見学室	1,890.00㎡
活動用諸室	研修室・講堂・学習情報センター『なにわ歴史塾』	
その他諸室	研究室・会議室・事務室	

大阪中之島美術館

2022年2月2日、大阪の中核であり、水都のシンボルである中之島に中之島美術館が誕生しました。1990年に準備室が設置されてから30年もの年月が過ぎ、めざすべき美術館像は時代の流れの中で変わっていきました。では、21世紀に誕生する美術館は、今、そして未来の大阪、日本、世界において、どのような役割を担うべきなのでしょう。

大阪中之島美術館は、下記のビジョンを掲げます。

1 歴史をつなぎ、未来を創造する

美術館の基本を「いま」に結び、「これまでにない」をめざすこと

19世紀後半から現代までの美術とデザインを専門とし、収集・保存、調査・研究、展示・公開・普及という美術館の本格的機能を果たすと共に、既存の枠にとらわれない大阪の進取の精神にならい、新しい創造活動を発掘し、支えます。

2 情報や知識、発見や感動の循環をうながす

美術館の扉を開くだけに留まらない。さらに先へ、進みひらいていくこと

誰でも気軽に立ち寄ることができる「パッサージュ（遊歩空間）」を中心に、魅力的な「場」として、知識や経験が交わる「機会」を生み出す美術館として、情報・人的資源の芽を育み、社会へと送り出し、その循環と活用を促進します。

3 つながりを原動力とする

「足りないこと」を可能性としてとらえ、手を取り合う相手を探すこと

多様な第三者との連携によって機能や事業の発展を図る「協働する美術館」、市民と共に学び合う「共育する美術館」として、大阪・中之島をはじめ、さまざまなコミュニティの一員として社会と共に変化し続けます。

4 大阪に貢献する

大阪の「これまで」を活かし、世界に「これから」を発信し、中之島にて、ひと・こと・ものが、歩みを共にすること

大阪の歴史が培ってきた文化的土壌に根を下ろし地域文化を育み、中之島の芸術文化ゾーンの中心地的かつ大阪の新しいシンボルとなる美術館として、大阪から全国へ、また世界に向けて、人々の心を動かす創造力を発信します。

■ 展示・公開

● 展覧会

近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催しています。コレクションは、洋画、日本画、海外の近代絵画、現代美術、版画、写真、彫刻、デザインなどの領域にわたります。とりわけ佐伯祐三の名作、モディリアーニの裸婦像、具体美術協会のリーダー・吉原治良の作品、海外作家の代表作などは、国内外で高く評価されています。

（展覧会一覧）

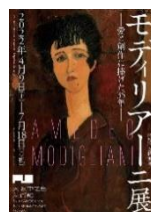
期間	展示名称	来館者数
4月9日～7月3日	みんなの町 大阪の肖像（第1期）	19,131人
4月9日～7月18日	モディリアーニ	145,776人
8月6日～10月2日	みんなの町 大阪の肖像（第2期）	14,516人
7月23日～10月2日	岡本太郎	162,534人
10月22日～1月9日	すべて未知の世界へ -GUTAI 分化と統合	23,549人
10月15日～1月9日	ロートレックとミュシャ パリ時代の10年	53,796人
1月21日～4月2日	大阪の日本画	43,093人

みんなの
肖像の大家
像(1) 阪



みんなの町 大阪の肖像

みんなの
肖像の大家
像(2) 阪



モディリアーニ



展覧会 岡本太郎



すべて未知の世界へ
-GUTAI 分化と統合



ロートレックとミュシャ
パリ時代の10年



大阪の日本画

■ 収集・保管

19 世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な美術作品を核としながら、地元大阪で繰り広げられた豊かな芸術活動にも目を向け、購入および寄贈の受け入れを継続的に行っています。

（令和 4 年度：購入 32 件、寄贈 69 件）

またアーカイブ情報室を設置し、美術館の情報資源として作品を長期保存しています。

■ 教育普及

美術とデザイン作品を楽しみ、想像力を高めることができるプログラムを、様々な専門機関と連携して企画・実施します。

- （１） 講演会・シンポジウム・トークショーなど
 - ・展覧会ごとに関連する講演会やワークショップ等を実施
- （２） 子ども向けワークシートの作成・ワークショップの提供
 - ・ナッカキッズ・ワークシート（美術館の紹介と展覧会の鑑賞ガイド）を HP にて公開
 - ・ナッカキッズ・コミュニケーションプログラムを提供
- （３） 学生への支援
 - ・博物館実習を通じての学生への支援
 - ・大学への講師派遣

沿革

昭和58年（1983）	大阪市制100周年記念事業基本構想の一つ（近代美術館の建設）
平成2年（1990）	近代美術館建設準備室設置
平成16年（2004）	「心斎橋展示室」開設
平成24年（2012）	「心斎橋展示室」閉室
平成25年（2013）	2月 中之島に新しい美術館を整備することを、戦略会議で決定 6月 市立美術館と新美術館の「建物の統合」は行わず、東洋陶磁美術館を含めた3館について「経営統合」を目指すことを戦略会議で決定
平成26年（2014）	戦略会議において「新美術館整備方針（案）」の内容を確認し、 2020年度までの開館をめざすことを決定
平成28年（2016）	施設整備は公共で実施し、運営にPFI手法を導入する方針を決定
平成29年（2017）	公募型設計競技（設計コンペ）により設計者を選定
平成30年（2018）	美術館の名称が公募により「大阪中之島美術館」に決定
平成31年（2019）	3月 公募型プロポーザルによりVIデザイナーを選定 4月 地方独立行政法人大阪市博物館機構設立 6月 大阪中之島美術館の運営におけるPFI事業の実施方針の公表。 特定事業の選定及び募集要項等の公表
令和2年（2020）	2月 PFI事業の優先交渉権者の公表 4月 株式会社大阪中之島ミュージアムと公共施設等運営権実施契約を締結
令和3年（2021）	株式会社大阪中之島ミュージアムに公共施設等運営権を設定
令和4年（2022）	2月2日 開館

施設概要

規模・構造	地上 5 階建
延床面積	17,305㎡
展示面積	3,148㎡
収蔵面積	2,044㎡
展示室構成	3 室（4 階、5 階） 4 階 展示室 1 682㎡ 展示室 2 733㎡ 5 階 展示室 3 591㎡ 展示室 4 733㎡ 展示室 5 409㎡
活動用諸室	ワークショップルーム・アーカイブ情報室・芝生広場 調査研究室・研究資料室・展覧会準備室
その他諸室	事務室・会議室・打合せ室

V 資料

■ 決算報告書（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（単位：百万円）

区分	予算額	決算額	差額 (決算－予算)
収入			
運営費交付金収入	2,642	2,695	53
施設整備費補助金収入	1,692	1,003	▲689
自己収入	393	531	138
事業収入	370	501	131
その他収入	23	30	7
寄付金収入	2	27	25
補助金等収入	0	67	67
前年度繰越金	722	1	▲721
計	5,451	4,324	▲1,127
支出			
業務費	2,148	2,212	64
展覧会経費	321	286	▲35
その他業務経費	610	644	34
人件費	1,217	1,282	65
施設整備費	1,747	1,109	▲638
修繕費	55	106	51
施設整備費補助金	1,692	1,003	▲689
一般管理費	865	950	85
機構戦略費	691	1	▲690
計	5,451	4,272	▲1,179

VI 大阪市博物館機構からのお知らせ

寄 附

ご寄附のお願い

大阪市博物館機構では、大阪市立美術館・大阪市立自然史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立科学館・大阪歴史博物館・大阪中之島美術館を運営し、歴史・美術から自然・科学に至るまで多様な分野において、それぞれの専門性を活かしながら、展示や調査研究など、博物館活動の充実に努めております。

市民の皆さまをはじめ、より多くのお客様にお越しいただける魅力あるミュージアムづくりのために皆さまのご支援をお願いいたします。大阪市博物館機構へのご寄付は、特定公益増進法人に対する寄附金として税制上の優遇措置の対象となります。

▶所得税の優遇措置

「寄附金額」または「総所得金額等の40%相当額」のいずれか低い金額から2,000円を除いた額が所得額から控除されます。

▶個人市民税の優遇措置

・大阪市に在住の方の寄附金税額控除

市民税の基本控除額（寄附金額 ※注1－2,000円）×8%

※注1 寄附金額は総所得金額等の30%が上限となります。

▶個人府民税の優遇措置

・大阪市・堺市に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注2－2,000円）×2%

・大阪府（大阪市・堺市を除く）に在住の方の寄附金税額控除

府民税の基本控除額（寄附金額 ※注2－2,000円）×4%

※注2 寄附金額は総所得金額等の30%が上限となります。

▶法人税

寄附金額と損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。

詳しくは、国税庁ホームページの・タックスアンサーNo.5283 特定公益増進法人に対する寄附金をご確認ください。

キャンパスメンバーズ

6つの博物館・美術館を管理運営する大阪市博物館機構と、大阪城天守閣を管理運営する大阪城パークマネジメント株式会社、大阪市立住まいのミュージアム 大阪くらしの今昔館を管理運営する大阪市住宅供給公社・アクティオ共同事業体は、7つの施設での大学生等による利用促進を図るため、「キャンパスメンバーズ」制度を設けています。

本制度は、大学・短期大学・専修学校・各種学校・高等学校を単位とし、学生・生徒等のみなさまに、博物館施設の常設展を無料で観覧できる等のサービスを提供するもので、活力ある地域社会の創造及び学術文化の向上発展に向けた人材育成に貢献します。



Osaka Metro 谷町線・中央線「谷町四丁目駅」2号・9号出口
大阪シティバス 「馬場町」バス停前

地方独立行政法人 大阪市博物館機構年報

【2022 年度】

令和 5 年 7 月

編集・発行：地方独立行政法人 大阪市博物館機構©

〒540-0008 大阪市中央区大手前 4 - 1 - 32 大阪歴史博物館内

電話：06-6940-4330 <https://ocm.osaka>